

# 「基地へ認識広がる」

## 東京 知事、辺野古意見書触れ

！開設5周年記念付



【東京】齋藤勲元内閣官房副長官が代表理事を務める政治塾「勁草塾」主催の講演会「平成30年の歩みから日本の未来を語る」が12日、国会内で行われ、玉城デニー知事が登壇した。玉城知事は東京都の小金井市、小平市議会などで米軍普天間飛行場の代替施設の必要性や移設先について国民的な議論を求める意見書が可決されたことに触れ

講演する玉城デニー知事  
12日、国会内

「(基地問題)を」発言する

へきたという認識が広がっているのはありがたい」と意義を語った。

日韓間の平和条約締結に関連し、ロシアのプーチン大統領が普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設を強行する政府姿勢に懸念を示していることに言及した。「プーチン氏は北方四島のうち一島でも日本に返した時、基地が造られないのか疑問視している。(日本が)住居が治める主権国家だと明かかにないと、北方四島の帰属も前に進めなさい」と指摘。日本の国際的地位を高める観点から、辺野古移設を止める必要性がある」と訴えた。

登壇した日本総合研究所の理事兼代表理事は「国会内の全米の米軍基地を柱上に載せ、必要性を議論へきた」と語った。